

# 夫婦の学歴結合からみる出生力格差の50年

—SSM2015年調査を用いた対角基準モデルによる生存分析—

○東京大学大学院 打越文弥

## 1 問題の背景

出生力が人口置換水準を下回る状態と定義される少子化は、社会階層間の出生力格差 (differential fertility) の縮小プロセスとしての側面も持つ。女性の高学歴化や労働市場への進出を通じて、近年では女性の学歴や就業形態が出生力に与える影響が注目されるが、出生は二人のパートナーからなるため、理論的には女性だけではなく配偶者である男性側の要因にも着目できる (Corjin et al. 1996)。

本報告では、妻や夫の学歴だけではなく、その組み合わせ (学歴結合) と出生力格差の関連を検討する。学歴結合の典型的パターンは夫婦の地位が同じ同類婚、男性の地位が女性よりも高い妻上昇婚であり、配偶者選択において非典型的な性質を持つ妻下降婚カップルは離別しやすい傾向を持つ。しかし、妻下降婚が全体に占める割合が高くなる中で、近年ではこうした不利が低減しているとされる。

したがって、妻下降婚カップルは出生力が低い (出産タイミングが遅い) と考えられるが、近年のコホートになるほど、他の学歴結合パターンとの差は縮小していると考えられる。本稿ではSSM2015年データを用いて、この問いを検討する。

## 2 データと方法

本報告では社会階層と社会移動調査 (SSM) 2015年調査データ (ver.070) を用いる。分析は女性サンプルに限定し、本人・初婚時の配偶者学歴、出生年、パリティ別出産タイミングを使用する。方法としてSobel (1981) が開発した対角基準モデル (Diagonal Reference Model) を用いる。このモデルでは、妻学歴  $i$ 、夫学歴  $j$  からなる従属変数  $Y_{ijk}$  は、各学歴の対角に位置する集団の平均値  $\mu_{ii}$  と  $\mu_{jj}$  からの距離を重み付けパラメータ  $p$  ( $0 \leq p \leq 1$ ) として定義することで推定される ( $\beta_b$  は共変量)。今回はさらに、対角基準モデルを時間ごとに個人が出生を経験するハザードを求める生存分析に応用する。

$$Y_{ijk} = p\mu_{ii} + (1-p)\mu_{jj} + \sum_b \beta_b x_{ijb} + \varepsilon_{ijk}$$

## 3 結果

暫定的な分析結果は以下のようなになる。まず図1から、妻・夫の学歴の組み合わせで平均子ども数を見ると、一方の学歴が高くなるごとに子ども数が減少することがわかる。このグループ間の差に対して、夫婦それぞれの学歴以外に、組み合わせそれ自体が影響しているのか。表2の結果から、仮設と反して近年の出生コホートにおいて、妻下降婚カップルがそのほかのグループに比べ第1・2出生タイミングが早いことが分かった。当日の報告では、この背景について検討する。

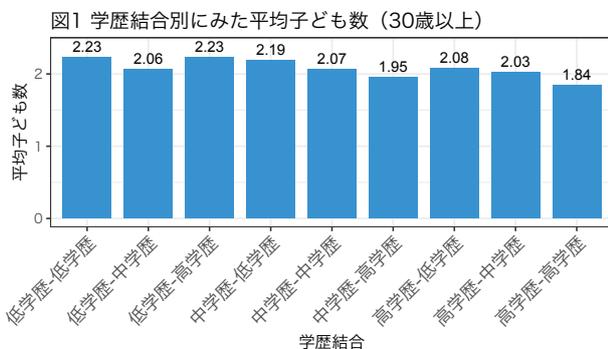


表1: 対角基準離散時間ロジットモデルの分析結果

	第1子 (1935-59年)	第1子 (1960-84年)	第2子 (1935-59年)	第2子 (1960-84年)
リスク期間	-0.166*** (0.008)	-0.117*** (0.009)	0.019*** (0.003)	0.175*** (0.007)
同類婚ダミー	-0.030 (0.131)	-0.214* (0.084)	0.021 (0.082)	-0.320* (0.130)
上昇婚ダミー	-0.002 (0.218)	-0.416*** (0.124)	0.052 (0.103)	-0.164 (0.186)
初婚年齢			-0.082*** (0.011)	-0.203*** (0.016)
Num. obs.	8301	6997	23350	16039

注: SSM2015より筆者推計。\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$  \*\*\*  $p < 0.001$ 。p及び $\mu$ パラメータは省略。

文献 Corijn, M., A. C. Liefbroer, and J. Gierveld. 1996. "It Takes Two to Tango, Doesn't It? the Influence of Couple Characteristics on the Timing of the Birth of the First Child." *Journal of Marriage and Family* 58(1):117-26.

Sobel, M. E. 1981. "Diagonal Mobility Models: a Substantively Motivated Class of Designs for the Analysis of Mobility Effects." *American Sociological Review* 46(6):893-906.

謝辞: 本研究はJSPS科研費特別推進研究事業 (課題番号 25000001) に伴う成果の一つであり、本データ使用にあたっては2015年SSM調査データ管理委員会の許可を得た。